

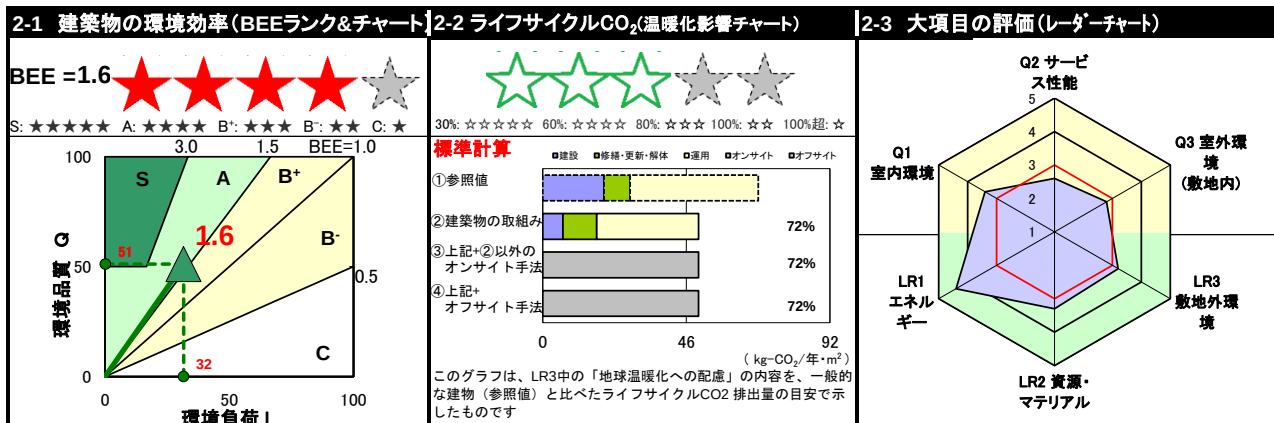
CASBEE® 名古屋

評価結果

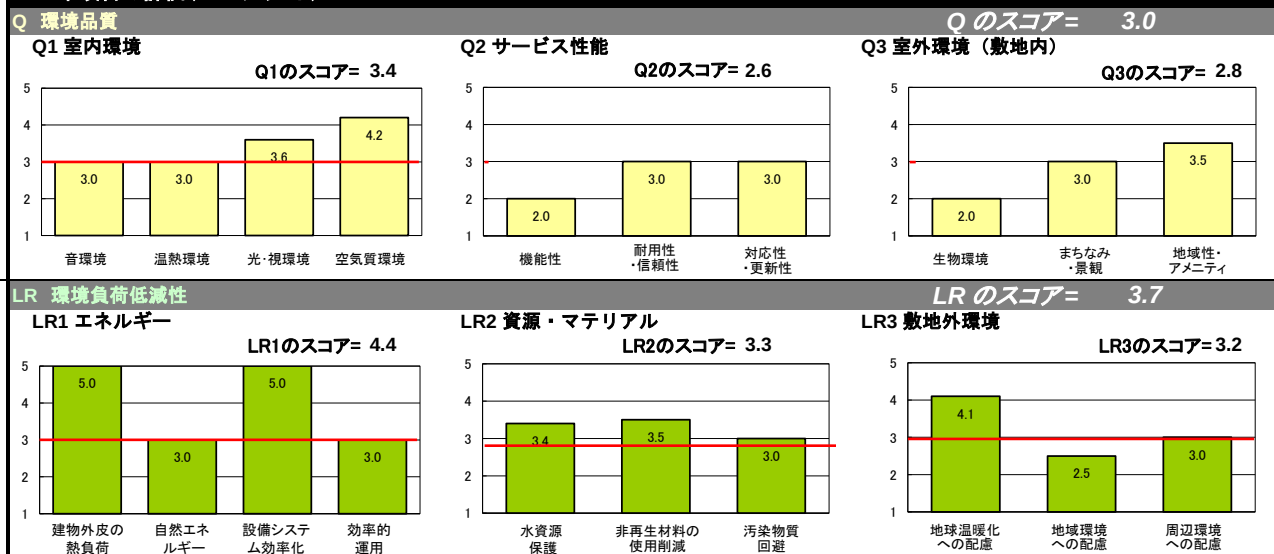
■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2020年改訂版、令和4年度環境省環境政策評価委員会より公表) ■使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	城北第4次公営及び更新住宅	階数	地上10F
建設地	名古屋市北区名城三丁目16番及び17番の各一部	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	208 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	
竣工年	2027年6月 予定	評価の実施日	2025年2月25日
敷地面積	5,832 m ²	作成者	
建築面積	756 m ²	確認日	2025年3月10日
延床面積	5,920 m ²	確認者	

外観バース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地内ではできる限り緑化を行い、潤いのある空間としている。 集会所を同じ敷地内に設け、地域社会の交流拠点となるようにしている。	
Q1 室内環境 F★★★★の建材を全面的に用い、シックハウスへの配慮を行った。また自然換気・機械換気を十分に設けている。 南面にバルコニーに面して大きな開口を設け、採光に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内ではできる限り緑化を行い、潤いのあるスペースとしている。広場に面した集会所を同じ敷地内に設け、地域住民のコミュニティ活動を支援するようにデザインした。高齢者に配慮し、出来る限り高低差のないアプローチとし、ベンチを一定の間隔で設置した。
LR1 エネルギー 太陽光発電パネルを屋上に設置し、自然エネルギーの利用に配慮した。	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制に配慮し、透水性アスファルト・浸透トレンチ等の設置により雨水の地面への浸透を促進する対策をしている。隣地への日照に配慮し、隣地への日影ができる限り小さくなるように配慮した。十分な数の駐車場を敷地内に配置し、荷捌き用の駐車施設も確保し、周辺道路への影響が少なくなるように配慮した。
Q2 サービス性能 各住戸にエレベーターでアクセスでき、人にやさしい街づくり条例の基準を満たした設計となっている。 十分な耐震性のある建物としている。	LR2 資源・マテリアル 再生骨材の路盤利用、高炉セメント(土間コン、捨てコン)の利用を行う。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

城北第4次公営及び更新住宅

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。